

第42回新日美展 受賞の喜び

私の絵

参議院議長賞 四方公子

この度は身に余る大賞を頂きこれからの大きな励みと重責を感じています。今まで通りの自分と向き合って描き続けねばならないとも思っています。

私は絵を描きだして、色々な財産を頂きました。平成六年から新日美に出展して今日まで、いっぱい私なりに勉強させて頂きました。そしていかに自分のモノにするかに気付きました。

超特厚の水彩紙をパネルに水張りして念入りに乾かし、下地を塗り又乾かす。何もかも一人の作業で、これが結構体力が要ります。

ガレージにパネルを広げているのですが、水彩画なら部屋で出来るような事と思われませんが、自分としてはサラサラの水っぽい綺麗なイメージの水彩ではなく、自分の思いをいかに出すかと言う気持ちをお大切に描き、遠くから見たり、近くから目を引く付けて見たりと苦闘しています。

下地もそれに頼ったらだめだよとも言われましたが、頼ると言うより自分で見出した事への大きな愛着です。

描いて描いて描き続けてその

中から出てくるものを見つけ出したのです。よ～～～～く見ると、えっ！こんな色も感じるという言葉な奥深い物を見つけ出したのです。なんだか立派な事を述べているようですが、四苦八苦です。それがまた楽しくも有るのです。

毎回 モチーフは海外での印象です。旅行は食べる事より見る事優先ですから、はぐれない様にと言う事が第一です。

紙は水彩紙だけでなく街で見かけた紙、旅行先で見つけた地元産の紙、海外の土産物店で売っている紙など何でも買って置き、自分で裏張りして使います。意外と草や藁などが入った紙が面白くて、自分流に絵を描き裏張りして掛け軸にして我が家の床を飾ったりしています。もう二十年以上掛軸など買っていません。

年齢相応に楽しみも出来、絵を描くという大きな遣り甲斐を見つけた自分を、幸せ者と思えます。

絵は自由！いつでも何処でも！一人でも！どんな時も描ける唯一の事と思います。

これからも、仲間や家族そして自分自身をも大切にして描いて行きたいと思えます。

衆議院議長賞を頂いて

保田 昌子

サンドブラストを始めて一五年になります。この様な節目の年に第四二回新日美展において衆議院議長賞という大変栄誉ある賞を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。今後の作品作りの励みになるものと思っています。

私のサンドブラストで使うガラスは被せガラスで何層もの色を重ねて作られています。

そのガラスの表面に強い力で砂を吹きつけ色を剥がすことにより下に眠る色を浮び上げさせ、これを複数回行う事により立体的で深みのある物に変貌させて作者の意図するものになっていく複雑な工程を取るものです。

これは大変繊細な作業で神経を使う事になります。彫り終わった後ルーターで角を剥り落し滑らかにして全体を磨き、上薬をかけて全行程を終了します。

色々な工程を経て段々と綺麗に仕上がっていく所が何とも言えず心が踊りワクワクして疲れも吹き飛ぶ瞬間です。

これからも見る人が美しい、綺麗だと感じていただける作品を作っていきたいと思っています。

師である竹内洪先生、そしていつも無理なお願いを快く受けて下さる厚木ガラスの島村先生、スタッフの皆様、そして私の家族に感謝しています。



孔雀紋花器



極楽鳥紋ランプ



孔雀紋花器

サンドブラストガラス工芸に魅せられて 保田昌子ギャラリー